

令和7年度 第5回 引佐北部小中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年 2月26日（木） 13時30分から15時35分まで
  - 2 開催場所 引佐北部小中学校 校長室
  - 3 出席委員 山本 培代、廣瀬 稔也、池田 信子、五十川 亜純、松田 好道
  - 4 欠席委員 鈴木 知成、萬立 芳朗
  - 5 学 校 畠山 徹（校長）、高柳 もと子（教頭）、中道 茂美（教務主任）、野末 敏宏（教務主任）、鈴木 亮祐（生徒指導主事）、田力 里枝（CSディレクター）
  - 6 傍聴者 なし
  - 7 会議録作成者 CSディレクター 田力 里枝
  - 8 議長の選出  
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、松田委員が推挙され、全員異議無くこれを承認した。
  - 9 協議事項  
（1）学校関係者評価（学校評価・いじめ問題への取組） 教務・生徒指導主事  
（2）学校運営協議会自己評価 教頭  
（3）令和8年度学校運営の基本方針について 教頭  
（4）その他
  - 10 連絡  
（1）休日の部活動の地域移行について 教頭  
（2）第3期委員について（口頭） 教頭  
（3）令和8年度学校運営協議会年間計画について 教頭  
（4）その他
  - 11 会議記録  
司会の教頭から、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。  
教頭が途中退席をするため熟議の順番を変更し、協議(1)の後、連絡に続くことを説明し、委員の了承を得た。
- <協議>
- (1) 学校関係者評価（いじめ問題への取組）  
生徒指導主事より、いじめ問題の総点検結果として具体的な改善点の説明があった。また、ささいなことでもいじめとして取り上げて、丁寧に対応したことが伝えられた。
    - ・長くかかっている案件はあるか。（廣瀬委員）  
→子供の様子を見ながら丁寧に行っているものがある。そのため、事実確認や状況確認に時間がかかっているものもある。（鈴木・教頭）  
→状況について委員会に報告している。丁寧に対応していく。（教頭）
    - ・保護者との信頼関係は大丈夫か。考えの行き違いはあるか。（松田委員）  
→ないと考えているが、学校が知らないところがあるかもしれない。そのため、丁寧に聞き取って対応していきたいと考えている。（校長）
    - ・小学校のほうが中学校よりもいじめの認知件数が多いが、小学生は何でも大人に言うからかもしれない。大人もどう扱ったらよいかわからないこともある。関わる教師の寄り添い方でそのあとが変わる。先生がわかってくれた、認めてくれたという記憶が大切だ。（五十川委員）

- ・親の立場で考えると、子供だけでなく、親の話も丁寧に聞いてほしいと思う。また、学校以外の様々な施設や活動での子供との関わりも大切だ。(池田委員)
- ・親の姿勢も大いに影響がある。過去に給食で悩んでいた子供に先生が寄り添ってくれて、不登校にならずに済んだ例がある。(山本委員)
  - 本校でも、学校に来られていない子供の家にたびたび教員が家庭訪問をして関わりをもち、今は外に出てフリースクールに通えるようになった子もいる。(校長)
- ・9年間一緒にいれば、いざこざなど何かあって当然とも思う。いじめを受けている側もしている側も、子供と同じく保護者にも不安がある。小規模校ゆえに親同士の関係の影響も多い。(松田委員)

<連絡> ※以下、3点とも教頭から説明、確認

(1) 休日の部活動の地域移行について

- ・子供・保護者のアンケート結果から、令和8年度9月以降の休日の活動について、今のところ、引佐北部小中学校区で地域クラブを立ち上げることはしない方向である。多くの子供がすでにある民間クラブや他地域の地域クラブ等に行く可能性が高い。

(2) 第3期委員について

- ・R8年度スタートの第3期委員について、無事に継続の2名と合わせて7名の委員が決まった。

(3) 令和8年度学校運営協議会年間計画について

- ・R8年度の協議会の開催回数を確認。→ R7年度と同じ5回に決定。

<協議>

(1) 学校関係者評価(学校評価)

- ・学校運営の重点事項で、「自分たちの学校は自分たちで作る」意識の向上とあるが、具体案はあるか。(廣瀬委員)
  - 生かせる場所はどこかを、それぞれの担当で現在話し合っているところだ。(中教務)
- ・自分たちの話し合いで何か変わったとわかると自信になる。(廣瀬委員)
- ・国際コミュニケーション科とふるさと科を活用するのが本校の特色なので、ぜひ続けてほしい。(松田委員)

(2) 学校運営協議会自己評価

- ・プレの時から8年関わってきた。学校にかかわる人が増えるといい。学校を残す以上は、子供の数を確保できるといい。学校の応援団として、地域の方々に「私たちの学校」と思ってもらいたい。子供にとって何が一番大切か考えて、子供と地域住民、保護者で協議し続けていけるとよい。何ができるのか、考えていく。(廣瀬委員)
- ・「未来デザイン会議」に委員長として参加した。コロナで継続できなかったのが心残りだ。ベンチプロジェクトは地域の方と9年生が深くかかわれてよかった。発信だけでなく具現化するのがポイント。情報発信は、高齢者が多い地域であることから紙ベースのものとよい。(五十川委員)
- ・学校の変化がよく分かった。高齢化少子化に伴って学校は遠くなっているが、地域の方のかかわりでつながりが続くといい。(山本委員)
- ・学校がなくなるということは非常にさみしいこと。花壇の整備や草刈りなどで地域の人を学校に引っ張ってくるのができたらいい。(池田委員)
- ・他校と比べて熟議はよくできている。廣瀬委員や五十川委員が作ってくれたベースは大変良いと思う。これまでの協議会の姿勢や取り組みを大切にしていく。(松田委員)

(3) 令和8年度学校運営の基本方針について

校長より、R8年度の学校運営のポイントについて、ランドデザイン等をもとに説明があった。

- ・主体性は大切。どうやって身に付けることができるかが大きな課題。(廣瀬委員)
- ・小規模校ゆえに子供と深くかかわることができる。しかし、子供の行動を大人が待てないことがある。(池田委員)
- ・(本校の児童生徒は) 町の子供と何が違うか？(松田委員)  
→やさしい、素直、家庭環境がととのっていることが多い。(校長)
- ・満たされているから主体性に欠けるのではないか。(五十川委員)
- ・経験や困難な状態に会うことで、主体的になれるのかもしれない。(山本委員)